

平成 21 年度 内分泌かく乱化学物質環境調査結果について

「内分泌かく乱化学物質」とは、動物の生体内に取り込まれた場合、本来、動物の生体内で営まれている正常なホルモン作用に影響を与える外因性の物質のことで「環境ホルモン」とも呼ばれており、石川県では、平成 14 年度から調査を実施しています。

平成 21 年度は 3 物質の調査を行いました。環境省が示す「魚類に対しても影響を与えない濃度（魚類無影響濃度）」よりも低い濃度でした。

(単位：μg/L)

調査物質	主な用途	大聖寺川	動橋川	犀川	浅野川	羽付川	御嶽川	河原田川	魚類無影響濃度	全国調査結果(注2)
ノニルフェノール	界面活性剤の原料	0.05 未満	0.608	ND~0.48						
4-t-オクチルフェノール	"	0.01 未満	0.992	ND						
ビスフェノールA	樹脂の原料	0.01 未満	24.7	ND~1.0						

注1) 1 μg/Lとは、1リットル中に100万分1グラムが含まれる濃度のことです。

注2) 全国調査結果とは、「平成 20 年度版 化学物質と環境(平成 21 年 3 月 環境省環境保健部環境安全課編)」に掲載されている昭和 49 年度から平成 19 年度までの調査結果の範囲を示しています。

担当
石川県環境部環境政策課
TEL 076-225-1463